

会 議 録

会議の名称	第7回守谷生まれの食品推進協議会		
開催日時	平成29年11月13日（月） 開会：午前10時05分　閉会：午前11時40分		
開催場所	守谷市役所 小会議室		
事務局（担当課）	生活経済部 経済課		
出席者	委員	西田会長，梅木委員，杉原委員，相良委員 計4人	
	市職員	坂生活経済部長，宇田野生活経済部次長兼課長，間島課長補佐， 会見主査，染谷係長 計5人	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
	傍聴者数	0人	
公開不可の場合 はその理由			
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 報告事項 ①守谷生まれの食品に関するロゴマーク及びイメージポスターの決定について 4 協議事項 ①ロゴマークとポスターの活用方法について ②のぼり旗のデザインについて 5 閉会		
確定年月日	会議録署名		
平成29年12月8日	会長 西田昌明		

審 議 経 過

1 開 会

事務局：本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第7回守谷生まれの食品推進協議会を開会いたします。会議規約で協議会の成立は、過半数ですから13名で7名の出席が必要となりますが、今回はお集まりの皆さまにご意見を伺う形で進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

先日の表彰式におかれましては、相良さん、杉原さんにご協力をいただきましてありがとうございました。今日は急遽、欠席の方がいらっしゃいますが、始めさせていただきます。

2 会長あいさつ

会 長：だいぶ寒くなってきました。皆さま、風邪などめされないように気を付けてください。事務局の方から色々と話が耳に入っていると思いますが、ロゴマークと食品推進のポスター、良い作品が選ばれました。振り返ってみると守谷生まれの食品推進協議会、これは一体何なんだろうと話が始まり、今、守谷の食品はどんな状態なのか現状を色々分析して皆さんと話し合ったのです。色々考えるうちに強力な武器はロゴマークじゃないかということに傾いていき、その成果といいますか結果、ロゴマークが出来上がりました。また、ポスターも立派なポスターが出来上がって、沢山の作品の中から選ぶのが大変ですが、特に事務局は、それに関する活躍や準備を進めていただきました。結果、良い作品が選ばれたということになります。私は何が問題かというのは、ここまではようやくたどり着きましたが、このロゴマーク、ポスターをいかに活用して食品の推進につなげていくか、これがこれからの課題だと思っております。守谷の市民の方に、是非、このロゴマークを愛してもらって、そして守谷の発展に繋げていけたらと思います。この辺は皆さんと相談していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会 長：それでは、報告事項に入ります。

守谷生まれの食品の食品に関するロゴマーク及びイメージポスターの決定について事務局から説明をお願いします。

3 報告事項

①守谷生まれの食品の食品に関するロゴマーク及びイメージポスターの決定について

事務局：お手元の資料「第7回守谷生まれの食品推進協議会」と表題があります横向きの資料をご覧ください。

第7回守谷生まれの食品推進協議会の資料に基づき、守谷生まれの食品の食

品に関するロゴマーク及びイメージポスターの決定について報告

- ・ロゴマーク，ポスターの募集概要
- ・応募状況
- ・審査
- ・採用作品
- ・公表
- ・表彰
- ・守谷生まれの食品ロゴマーク，ポスター採用作品 副賞紹介

会長：事務局からの説明がありましたが，ロゴマークの決定についてですが，10月16日に開催された審査会には，協議会会長として出席いたしました。副会長の坂本さんも一緒に審査員として出席し，沢山の応募作品の中から採用作品を決定しました。

表彰式にも出席し，協議会の事業者の方々から素晴らしい「守谷生まれの食品」の無料提供をいただき，副賞としてお送りすることが出来ました。

ご協力ありがとうございました。

それでは，協議事項となります。

4 協議事項

事務局：まず，ロゴマークについては，ロゴマーク入りののぼり旗とシールを作成します。

作成した後ののぼり旗の活用方法について，協議をお願いしたいのですが，まず，配布の対象者，スーパーとか飲食店とか色々な形態の業者さんがいらっしゃると思いますが，こういった形で，こちらでどのように配布をするのかということですね。配布の方法としまして，お店のほうに登録をいただいて配布するのかといったところです。デザインとして，参考はありますが，こういったものが良いか，皆さんの意見をお伺いしたいと思います。

まず，配布の対象ですが，今のところ，お店を構えている方，守谷生まれの食品を扱っている事業者ということで良いかと思いますが，飲食店は後にしまして，まずは，守谷生まれの食品を販売している，小売している業者さんでよろしいでしょうか。

こちらについては，協議となっていますが，実際には，協議会の皆さんにご協力をいただいて，のぼり旗を出していただくところを広げていただきたいというのがあります。その際に，飲食店というのが，前回は話題になりましたが，作り方が様々なものですから，例えばファミレスとかただ温めるだけというのは，調理にあたらなと思いますし，なかなか難しいところがあります。当初，のぼり旗の数ですが，予定300枚ですが，1か所に1～2本。2本ずつですと150ヶ所になります。150本ぐらいであちこちに立っていないと，なかなか皆さん目に触れる機会がないのかなと思いますので，なるべく多くのところに掲出していただきたいと思います。守谷生まれ

の食品を売っているお店は当然あるわけですが、作っているお店を含めるか、例えば、ミルク工房や住化ファームさんなども対象とするのか、単に小売だけでなくそういったところも含めて対象として、考えられると思います。まず、どんどん出していただくのが優先で、こちらの数と状況を見てお配りする。いずれにしても、対象に配る要綱的なもの、枚数や配布方法、形的には申請をいただいて、こういう食品を扱っているのでのぼり旗を掲出いただいているという把握を含めてやっていくのが良いのかと考えています。こういったものも含めて、ご意見をいただければ、今日は人数が少なくて申し訳ありませんが、欠席の方にはご通知をして、さらに、ご意見をいただき、あまり長く期間がとれませんので、なるべく早く、のぼり旗の発注と配布方法を決めて、のぼり旗が仕上がったら、また、協議会で皆さんにお願いしてのぼり旗をどんどん掲出いただきたいと思います。

会 長：ありがとうございます。折角、ここまで詰めてきたのですから、ここからが本当の勝負かと思いますが皆さん、いかがでしょうか？

杉 原：置いていただけるのなら、販売店の方に置いてもらった方が嬉しいかと思いますが、枚数300枚を市内全域に配った場合、どの程度の目立ちがあるかですよね。文字は入れますか？

事務局：基本的には文字は入れます。絶対入れるのは、シンボルとなるロゴマークです。その下にどういった文字をいれるのか。例えば、協議会とか守谷市とか入れたほうが良いのか、デザインに関してご意見を伺いたいです。

相 良：やはり適合しているかどうか確認をして、広報に掲載し、募って応募して、適合しているか確認をして、1店舗あたりに2枚程度配れば良いのではと思います。消費者から、どこにでもあるという形であれば、選ぶのにみんなそうなんだということに成りかねないので、守谷生まれを全面に出すのであれば、きちんと見極めてやっていただきたいと思います。

会 長：ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。

梅 木：守谷生まれの食品を取り扱っている事業所ののぼり旗なのか、食品があるのぼり旗なのか、そういうものが決まったのぼり旗なのか、それによってコンセプトが変わってしまう。今後、守谷生まれの食品はブランド力をあげて、守谷で作ったものは美味しいよとイメージを出しながら、のぼり旗を揚げてくれるお店の販売促進に繋がなくてはいけない。守谷の食品が決まった中で美味しいよとアピールすることによって、それを取り扱って事業者が潤ってくる。守谷のものを使っているならば、買ってみよう、寄ってみよう、食べてみようと導いていく、最終的には売れなきゃしょうがない。誘致を模索して、第一段階、第二段階とステップなのかなと思います。守谷生まれとは何なのか、美味しい商品、素材をアピールすること、この辺コンセプトを考えていかなければならない。配布本数にしても、相良さんの店に20本持っていてもしょうがない。イオンタウンとかカスミに2本持っていても、どこにあるのかという話になります。アピールする事業所の店舗の大きさとか

考慮しなければなりません。基本は決まったとしても、基本によっては考えなければならぬ。事業所に協力してもらおうにしても、貸与になるから、文書の取り交わしが無いにしても、その辺をしておかないと、ただのぼり旗が立っていましたではしょうがない。相良さんが心配するようにのぼり旗だけあってお祭りしているだけじゃない、そういうものはどういうことを裏付けさせなきゃいけないと言うこともでてくるのではないかと思います。

会 長：ありがとうございました。

梅木さんの話と重複しますが、朝日新聞に守谷の食品よろしくねと書いてあります。新聞の見出しとして使っていますが、いかにも抽象的でわからないものです。新聞はそういうものです。市がロゴマーク決定となっております。皆さんのご意見を聞くと、もっともなことばかりです。どういう方向にもっていくかは、もう少し検討しないとイケないのではと思います。ロゴマークとデザインをここで決めるのは難しい。ご意見はいただいて、後ほど、雛形を作らないとイケないと思いますので、その方向で進めていただければと思います。

事務局：お任せいただければ、具体的な形でお示ししていきたいと思います。この先、のぼり旗で何をやるのか。まずは、のぼり旗と考えています。のぼり旗で事業所なりお店なりがここですよ、その先に商品があり、その辺はシールなりでこれですというものを表示しないと消費者は、わからない。まずは、ロゴマークのPRとその食品を作っている、売っていますよと言うような事業所さんのPRをして、続いて、そのシールとかを事業者さん用に作るなり、データを提供して包装なり、事業所やそのお店にあった形で使っていただくのも皆さんに検討していただく必要があると考えております。順序的には、マークのPRと作っている商品、扱っている商品がある事業所さんにご協力をいただいてのぼり旗を掲出してPRすることが、第一段階と考えております。

会 長：第1段階から第2段階に移るまでに、間隔がありすぎると大変なことになってしまうので、この辺は、今日は少数制ですが、皆さんの意見をくみ取った上で、次のステップを考えなければいけないので、事務局みなさん、恐縮ですが、よろしく願いいたします。

事務局：のぼり旗だけでは難しいですから、広報するごとに守谷生まれの食品はこういうものですよと必ず入れるようにしているが、のぼり旗を配る場合には、同様にお店に貼っていただける、あるいは紙1枚、手にとって読んでいただければわかるようなものとかを、併せてお渡しするのは必要だと思っています。ただのぼり旗だけあって、お店も守谷生まれだから出しているだけでは、お客さんも何それと言う感じになるので、併せてやる必要があると思います。

会 長：市民の皆さんに、ロゴマークに愛着を感じてもらえるようなそういう方策を考えなければいけないと思います。総合的に色々とありとあらゆる角度か

ら研究しなければいけないと思います。言葉で言うのは楽ですが、これを具現化していくのは難しいことです。第一段階が終われば、ほとんど後は流れに任せるとというのが、一つの、恐縮ですが、お役所の傾向だったと思うのですが、こんなことを言うては大変失礼なことには言うてはならないのですが、こんなことにならないようにこの協議会は頑張りましょう。お願いいたします。

事務局：ポスターの活用について説明します。

実物が八つ切りですので、これをカラーコピーしてラミネートして綺麗に作りまして、お店の出入口のガラスに貼っていただくとか、のぼり旗と一緒に宅配しようかと思っています。ポスターには学校名、名前を表示してお渡ししたいと思っています。

のぼり旗とポスターと守谷生まれの食品の説明を3点セットでお願いして広げていきたいと考えているところです。

相 良：のぼり旗だけだと守谷生まれの何を指しているのかわからないので、こちらのポスターと一緒に配布していただけるのは、凄く良いことだと思います。ポスターで守谷生まれの食品や笑顔があるので、よくわかりますし、のぼり旗だけでない良さが出ると思いますので、是非、一緒に配布していただきたいです。のぼり旗ですけれども、見本で、旗は割と白いところに何かというのが多いのですが、黄色のカラーののぼり旗だと、白、無地よりも黄色が目に入るので、黄色がよく、縦のラインを入れるとマークが小さくなってしまいうので、黄色ののぼり旗が目立つのではないのかと思います。あとは、守谷市推奨とか入れると良いと思いました。

会 長：言われることはもっともだと思います。確かに、地が白のところに置かれても何かもう一つ物足りないという感じになりますし、目を引くことが、のぼり旗とかロゴマークとかポスターの効果だと思いますので、その辺も事務局で一つ考えていただきたいと思います。

事務局：のぼりとポスターと守谷生まれの食品の説明を3点セットで行いたいと思いますので、準備の方を検討させていただきたいと思います。

ポスターのサイズのご意見があればですが、都合上、カラーコピーとかラミネートとか出来るのがこのサイズまでで、ラミネートをしなければ、ただ印刷だけであれば、多少大きくできますが、このサイズでよろしいでしょうか。

相 良：予算的なことがあるのであれば、おっしゃっていただいたように大勢の人に配るということであれば、ラミネートで結構綺麗に出ると思うので、最初はこのサイズで良いと思います。欲を言えば、大きい方がもちろんいいですけど、やはりポスターとなれば金額がかかってしまうと思うので。

事務局：大型プリンター用の紙を購入するとお金がかかりますが、基本はこれで、もし、大きいのがありますとって事業所の希望があれば、その程度であれば何とか可能です。

相 良：大きい方が目立ちます。大概、お店といえば2サイズのポスターがあったほうが、目立ちます。このサイズだと見過ごしてってしまう方が大きいかなと思います。

事務局：このサイズと大きめのポスターを検討して、出来るだけ配布できるように検討したいと思います。

縦と横型があるので、両方貼るとかなりスペースが必要かもしれません。

梅 木：カラーコピーをしてラミネートするのであれば、印刷をかけたほうが安いのではないのでしょうか。

事務局：カラーコピーのラミネートだと、手作りで出来ますし、消耗品となります。

梅 木：見た目のお金が出ていかない話であって、費用対効果というか、そのお金だけで考えると、例えばドアぐらいのサイズとか極端に言うと、お店の中でドンとアピールしてもらおう。それは何枚かあって、守谷生まれを食べよう、さっきの話ですがイオンタウンのどこに貼るのか、全然見えなくなってしまう。やっぱり、その規模とか状況とか大小に合わせてやらなきゃいけないと思います。

事務局：色々と検討させて下さい。

原画がこのサイズなので、印刷屋さんへ頼んでもこれ以上の解像度にはならない。ただ、うちの方でも、大型プリンター、良い紙も多少あります。ですから、そういったものも活用して大きいものも試作してみたいと思います。

梅 木：新聞ぐらいの大きさがよいのではないのでしょうか。

事務局：おっしゃる通り、先ほどの本数にしてもそうですが、お店にもよりますので、基本はこのサイズになりますが、大きいサイズも試してみたいと思います。大きくなれば、2枚を1枚の中に入れることも可能です。空白を何で埋めるかの話ですから、先ほどの、守谷生まれの食品の説明なり、なんなりで大きくというのでも良いと思います。サイズについては、目立つもので、大きくインパクトがあるものも考えております。

会 長：商店で使った場合、どのぐらいの大きさまでが、許されるのか、その辺も参考にさせてもらわなきゃいけないですね。

次に進みましょう。

事務局：ロゴマーク入りのシールの活用について、シールをどういう方々を対象に配布するのか、また利用方法になりますが、黒島先生からも給食の栄養指導の先生方へ配布をお願いすれば、各学校の使用方法は異なりますが、給食の指導の時に配布したり、完食シールとして使用するとか、食べるだけでなく、家庭科とかに使ったりとかそういった方法で、各学校にお任せしていただければ、必要に応じて配布いただけるとの話をいただきました。第1弾として、子供達に身近に感じていただけるように子供達への配布を考えていますが、それ以外にも各店舗で守谷生まれの食品に対して貼っておいたら良いのではと思いますが、かなりの枚数が必要ですけど、店舗の方のご協力をいた

だかなければいけないので、その辺をどう考えていけばよいのか、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

第1段階、第2段階とあると思いますが、先々を考えると全部シールの需要が出てきて売れるようになっていくと一番有りがたいですが、そうなったときに全部市が用意するという訳にはいかなくなってきました。そういったことで事業者の方で、シールが良いのか、直接印刷の方がコストが安くて良いとか、事業者によって色々あると思います。貸与というか、使用权の申込みをいただいているということになるかと思いますが。そういった先の使用法を考えなければならぬ。それを見越してシールをやっていかなければならぬ。いきなりシールを初めて行き詰っても困るので、ご協議をいただきたいと思います。給食に関しては、基本的に栄養士さんでご協力いただいて学校で活用していただくと考えております。給食以外でもシールとして活用する商品に貼るとか、包装紙、袋だとか物にシールを貼るのも数が多くなった場合、事業者も大変なので、最初から刷り込んだものを作る時、データとしてお渡ししておいた方が、事業者さんの都合で使えると思います。

会長：シールを貼ることは一つのアピールとなりますが、小売店でも、大型店でも数多くて大変です。でも、やりますとどこのスーパーだか忘れましたが、大型スーパーで、シールを物に貼ることは効果があると思います。現物とシールを重ね合わせることによって、愛着が増えると思います。要するに抽象的ですが、いかに食品を愛する人が増えるか、増やせるかです。どういう目的で使うのか、もう少しわかるようにしないと、少し時間がかかるうちに良くなることは無く、薄れてしまう心配があるかもしれません。私の勝手な意見ですが、色々経験した中でそういうことを感じております。

梅木：つくばみらい市は小さいシールを商品1点1点売っているところがありますね。シールを貼ると売れるというところまで、持って行かなければ意味がない。決まったから貼るのではなく、商品としても物としても安心だよねというようなイメージを作っていかなきゃいけないので、シールを皆さんの手にとれるところに持っていく。街に出ればそののぼり旗で分かります。そういうものと並行していいものなのだとやっていかなきゃならない。会長の言われることと同時並行でやっていかなきゃならない。売れば、お店の人だってこのシール一枚貼れば売れるとなれば、それはただで貼る。労賃がなくても、売りたいのだから。そういうものを上手く作り出して、出来るだけ家庭の中までもって行ってもらうのが良いのではと思います。

会長：守谷の特徴のある商品なり産物なり、何と聞かれると正直困る訳です。シールを貼る価値のあるものを作らないと難しいですね。

相良：のぼり旗、ポスターは市予算で無料にてやっていただけるものなのか。シールは小さいものなのか。例えば、野菜など、一つ一つに貼っていくのか。それとも段ボールへ貼るのか。うちも小さなシールを使用しているが、1枚2円程度はします。市役所で考えている量はどのくらい考えているのかわか

りませんが、1店に1万枚とかにはいかない。150店舗分となると、どうしたら良いのかわかりません。ロゴマークを使いたいということであれば、市役所で最初の何枚かは皆さんに配布、そのあとは個人で市役所へ申込むとか、追加でお金を払うとか、お店によって使用枚数も違うし、貼れるか貼れないが出てくる。どうしたらよいものか。ヨーグルト屋さんもビンに貼るのは大変で、印刷はもっと大変である。野菜などはつけにくい商品である。

事務局：強制は出来ない。お店にお願いしてお店の判断で出来る出来ないものはもちろん出てきてしまうと思います。

相 良：予算が無くなった時に、用意してくれるのか難しいところだと思いますので制限をかけなければいけないと思いますが、次の分が無くなった場合、困る話が出てくる。

事務局：まず、ある程度のお店の規模に応じた枚数を作り、ある程度まとまった数をお渡しして、貼っていただき、無くなってしまったときに、市でも来年度予算で作る予定でいます。

数が増えてきた場合、市の予算で対応しきれなくなる場合が見込まれてきた時は、データ等をお渡しして、印刷して使用してもらう方法もあるかと思えます。今年度は、シールは学校関係でお願いする分の予算しかみておりません。来年度以降で、シールを要望する予定で学校だけではなく、つくばみらい市、つくば市で商品にやっていますので、そのやり方を参考にさせていただきます。当初はシールを用意するが、何枚以降はデータを渡して、その事業者さんで活用していただいで表示してくださいというようなやり方もありますから、一つのやり方として考える必要があります。商品につける話は、この協議会の初期段階でお話をいただいたかと思えます。今回、のぼり旗とかをやるのは、守谷生まれの食品は非常に範囲が広いことがあって、まずは守谷生まれの食品を知ってもらいましょうと言うことで、のぼり旗が第1段階になっていく。その中でセレクトしたものにシールをつけていただくのか、もともとの守谷生まれの食品が対象となり得るものですよという形でいくのか、その辺はこれからお話いただかないと、絞れていけないだろうと思えます。

杉 原：ブランド力の話があった。知名度を上げなければならないと、相反する話をしている。その辺の基本の話をもう1回考え直さないと話にならないですね。貼りやすいもの貼りにくいものがある。どんなものに対して貼るのか。学校給食の野菜にはっても何の効果もない。

事務局：給食のシールは食べ物に貼るのではなく、完食カードに貼るものである。全部食べましたよと言う意味のシールです。

杉 原：知名度を上げる、ブランド力を上げる、良いものを上げると言うのは、それぞれ別なものである。バランスをどんな風に考えているのか、やらないとふりだしに戻ってしまい、発言のしようがありません。

事務局：いままでの経緯もありますし、やることについての目的がブランド力なの

か知名度なのか整理して、またお話させていただきたいと思います。ロゴマークを決めました、のぼりを渡しますという流れと、ロゴマークを活用してブランド力をつけましようとの流れをとって論じてしまうと、まとまりがつかなくなるところがあります。

会 長：商品に貼るのは難しいですね。全部の商品に貼るのも大変です。

事務局：今年度は学校に完食シールでお話をしておりますが、その後の活用について、事務局でもう一度ブランド力を高めるものにするのか、それとも最初なので周知をもう少し広めて、広げていくのか、もう一度、一つ一つ考えなければいけないと思います。その辺の活用について検討したのちになるかと思えます。

梅 木：例えば守谷でできた野菜があれば、それがブランドで良いと思います。その中で1位、2位をつける必要はなく、可か否かを決定する必要はないと思います。守谷で作った、出来たことをアピールしてもらえば良い。そこに美味しい、不味いとかはそれぞれの味覚ですから、ブランド力というのはセレクトされたものではなくて、守谷で出来たものは全部美味しいぞと大枠でよいと思っている。守谷で作られたものであれば、まずはそういうものに貼ったり、見てもらったりとそこだと思う。守谷産と貼ってあるのは、美味しいよねっとなっていけばいいわけであって、美味いから貼るのは無理である。大枠のなかで守谷産、守谷で加工したものに貼ってもらう。つくば市もつくばみらい市もやっている。やっていたらところに協力してもらう。それに対して、自分達がのぼり旗を提供したり、チラシをまいたりすれば、相乗効果が出て良いのではと思います。

会 長：よくわかりますね。やっぱり守谷を愛するファンを沢山つくらなければならない。それが人的の攻撃のしかただと思っているわけですね。そうすると事務局の話に戻っていくわけですね。

事務局：今いただいたご意見、色々あると思います。シールの活用については、のぼり旗以上にどうするのか方向性を、のぼり旗は事業所ですから出せばよい。ところがシールは貼る対象が、商品だったり、それ以外だったり、お店の使い方になってきます。協議会として、選びましようになるのか、守谷生まれの趣旨をもってシールを対象とするのか、広いところからせめるのもあると思います。対して、狭いところになると、ブランド力が上がりますが、どういう風にするのか、折角ツールが出来たので、ツールを作って事業所さんを表示するところまでは出来たので、その先を協議していただきたいと思えます。

杉 原：基に戻ったのであれば、それで構わないと思うが、その辺がはっきりしない状態であれば、進むべき道がわからなくなってしまう。ブランド力の言葉は使わないで、守谷産地、地元でつくったものなんだと全面に出していく必要があります。

事務局：今回は、非常に大枠の話で資料を作っておりますので、整理してお示し、

あるいは、皆さんに集まっていただいて、協議をいただければと思います。

会 長：次をお願いします。

事務局：どう活用するのか、データで店舗等の話でしたので、使い方によってデータを活用してもらうのか、それともこちらから提供出来るものなのか、先ほどの話と併せてお示しします。今回、一番進んでいる話はロゴマーク、のぼり旗を作る話なので、色やデザインや協議会とかの名称とか、言葉など入れた方がよいものがあれば、ご意見をいただければと思います。優先順位はデザインになります。

会 長：協議会という名前を使うことは、景気づけに繋がるという時代は過ぎたのではないかと思います。この辺から、みなさんの意見を伺いたいです。

相 良：あったほうが良いかと思います。やはり信用のおけるというような消費者の考えがあるのではないかと思います。ただ、配布してあればという形よりは、ブランドとかではないですけども、この商品に関しては、市でも認めている、推奨しているものになるのではと思います。

梅 木：デザインに文字は入れますか。例えば、守谷生まれの推進協力店とかみんなで食べよう守谷生まれの食品ののぼり旗なのか。それによって随分違う。推進事業所なのか食品を取り扱っているのぼり旗なのかそういうものが決まったのぼり旗なのか、入る文字によって随分違う。

事務局：基本的には守谷生まれの食品のカテゴリーに入るものを扱っているお店に、これをポスターと一緒に配る。守谷生まれの取扱店のイメージです。今後、デザインの案と文字入れの案を含めて一回たたき台を作って全体で見てもらった方が良いでしょう。案を作ってみましたと示して、今日、来てない方もいらっしゃるのでは、意見をいただきたいと思います。

梅 木：取扱店を出すのか、食うなら守谷産とかキャッチコピーを入れるのか、それだけでも随分、方向も感じも変わります。

事務局：守谷生まれの食品とあった方が、これからみんなに知ってもらう、ロゴとワンセットで知ってもらうためには良いのかなと思います。文言によって単に推奨とか組織名をいれるのかで変わってきます。食べようとか地産地消を進めましょうとか推薦とか推奨ではなく、守谷市とか食品推進協議会が作ったのぼり旗となります。何か取り扱っているとか協力しているとかだと推奨とかになるとと思います。

梅 木：事業所としてはどうでしょうか。

杉 原：事業所の場合は、取扱い事業所となれば置くが、販売となると事業所としては置きづらいです。

事務局：PR 的になってきて、事業所でも出してもらっているが、食べようとか食おうとかの話になった場合は、お店じゃなくて例えば市役所でもいいわけです。その辺、お店でやっていただけるのかどうか、或いはその方針でいくかの2パターンです。

杉 原：市役所でのぼり旗や横断幕もおもしろいと思います。これに関しては、や

はり販売店なんかで進めてもらうのが良いか思います。

事務局：取扱いがわかるような、文言をいれたほうが取扱い事業所には良いと思う。

梅 木：素案を模索していただきたい。

事務局：基本的には取扱い事業所に出してもらう考えです。

会 長：いろいろなご意見が出ましたけれども、事務局のほうで原案といいますかたたき台まで作業を進めてもらって、出来た物を見ながら、それぞれのご意見を伺うようにいたしましょうか。そういうことでお願い出来ますか。

事務局：わかりました。よろしく申し上げます。

会 長：今日のところは一通り終わりました。

事務局：のぼり旗は年度内に終わって、新年度から配布が出来るような予定でおりまして、そうすると締め切りが決まっているので、発注を早めにするにあたって、事務局で案を考えまして、近いうちに皆さんにご覧いただいて、ご意見をいただく日程をご案内するような形でよろしいでしょうか。

—了承—

事務局：皆さんのご意見をみながら決めたほうが良いということでしたので、改めて近いうちに通知さしあげる形で考えさせていただきます。

梅 木：みんなで良いものを作っていこうというものですから、本来であれば、売る人、作る人、食べる人の立場が揃ったほうが本当に良いものが出来ると思っていますので、出来るだけ参加いただき、意見をもらえるようなやりとりをしていかなきゃいけないと。そんなところです。

会 長：皆さんの意見をいただきまして、ひと通りこれで協議が終わりです。

事務局：年度内に完成させるために、デザインを直ぐに考えて、皆さんにご意見をいただいて出来れば年内に発注できるようにしたいと思います。

梅 木：集まらない会議ではしょうがないので、データを送るとか電話でのやりとりではだめですか。

事務局：時期によって、やり方は考えさせていただきます。臨機応変に対応させていただきます。年度内に、実物が出来上がったときに皆さんにご覧いただきたいと思えます。要綱ですが、申請をいただいて守谷生まれの食品を扱っていることを確認し、のぼり旗とかの方向をとる手段、ルートも考えて、話が出来るとなったら年度内にもう一度会議を開催したいと思います。

会 長：今日は少数精鋭で良いお話ができましたので、こういうものはみんなが一生懸命やる気にならないと上手くいかないと思えますので、みんなで力を合わせて協議会を進めていきたいと思えますので、よろしく申し上げます。事務局へバトンタッチします。

5. 閉会

事務局：それでは、第7回守谷生まれの食品推進協議会を閉会いたします。
ありがとうございました。